

イオン環境財団が「エコプロ2019」に出展

持続可能な地域づくりに向けた取り組みを楽しく紹介します

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田 卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、12月5日（木）～7日（土）に、東京ビッグサイトで開催される日本最大級の環境展示会「エコプロ2019」に出展し、環境課題の解決に向けた取り組みを紹介します。

今回で3回目の出展となる本年は、7月に当財団が連携協定を締結した、一般財団法人リモート・センシング技術センター（理事長 池田 要）の協力を得て、「宇宙から地球を観測した衛星画像を使って、自然環境の変化や森の大切さを学ぼう!」をテーマに、環境問題をより科学的・客観的に楽しく学べるブースを展開します。

宇宙から撮影した衛星画像は、国境もなく広い範囲をひと目で見ることができます。この画像データを活用して、森林の減少、地球温暖化、砂漠化など地球規模の環境問題を可視化し、森を守ることの大切さを学ぶミニ環境教室やパネル展示、ワークショップなどを行います。

【出展概要】

期 間：12月5日（木）～7日（土） 10:00～17:00

場 所：東京ビッグサイト 西3ホール（小間番号：3-008）

テーマ：「宇宙から地球を観測した衛星画像を使って、自然環境の変化や森の大切さを学ぼう!」

【主な内容】

◆ミニ環境教室

次代を担う子どもたちに向けた、地球環境に関するミニ環境教室を実施します。

◆パネル展示

リモートセンシング技術、イオン環境財団の活動などに関するパネル展示を行います。

◆ワークショップ

多面体地球儀、缶バッチを製作するワークショップを行います。

◆ロケット並びに衛星の模型を展示

リモートセンシングを支えている技術を目で見て理解できるよう、宇宙から地球を観測した陸域観測技術衛星「だいち」と、「だいち」を宇宙に飛ばしたH-II A型ロケットの模型を展示しています。

◆「イオン eco-1（エコワン）グランプリ」の発表

地球にやさしい活動を続ける高校生が、日頃の成果について発表を行います。

スケジュール

12月5日（木） 11時15分、12時15分、14時45分、15時45分

6日（金） 11時15分、12時15分、15時45分

◆「美しい森林づくりスタンプラリー2019」

当財団ブースは、「美しい森林づくりスタンプラリー2019」の対象ブースです。



ブースイメージ

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団の活動について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹、生物多様性への取り組みを主な事業として、様々な活動を継続しています。イオンの植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,193万本（2019年2月末時点）を超えています。

（ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>）

■植樹事業

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森を再生させることを目的として、日本はもとよりアジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2019年度国内では、北海道南富良野町、宮城県石巻市、宮崎県綾町、千葉県九十九里浜にて、海外では中国武漢、インドネシアジャカルタ、マレーシア ビドゥにて植樹活動を実施しました。



第1回 北海道 南富良野町植樹



第2回 インドネシア ジャカルタ植樹

■助成事業

【環境活動助成】

1991年より28年間、豊かな自然環境を次代へ引き継ぐため、持続可能な社会を目指し、世界各地で活動している団体に対し助成を行っています。累計では2,948団体へ総額26億8,289万円の助成を行っております。助成対象となる活動分野は時代の変化に即応し、第28回募集からは次世代育成のための「自然環境教育」を新たな分野として追加しました。

■顕彰事業

【生物多様性アワード】

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設し、隔年で顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。

本年度は、9月26日（木）に、第6回「生物多様性日本アワード（国内賞）」の授賞式を行い、グランプリには、株式会社コクヨ工業滋賀が選ばれました。



第6回「生物多様性日本アワード」授賞式
（国際連合大学）

■環境教育事業

[アジア学生交流環境フォーラム]

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を実施しています。

2019年度は、「持続可能な平和のため」をテーマに、王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チェラロンコン大学（タイ）、ヤンゴン経済大学（ミャンマー）、フィリピン大学（フィリピン）の10ヶ国、計80名の学生が参加し、「持続可能な平和構築」をテーマに、8月2日～6日の期間、カンボジアのプノンペンとシェムリアップで開催しました。



第8回ASEP開講式（王立プノンペン大学）

[太陽光発電システム寄贈]

再生可能エネルギー活用の啓発・普及および環境教育を目的に、2009年から国内外の小中学校へ太陽光発電システムの寄贈を行っています。これまでに、日本・中国・マレーシア・ベトナムの4カ国で、計48校に寄贈しました。昨年並びに本年は、香港の小中学校計6校に寄贈しました。



2019年 太陽光発電システム寄贈
（東華三院姚達之記念小学）

■連携事業

[一般財団法人リモート・センシング技術センターとの連携協定]

2019年7月23日、一般財団法人リモート・センシング技術センター（理事長池田 要）と当財団とは、持続可能な地域づくりの実現に向け、リモートセンシング技術の活用に関し連携協定を締結しました。このたびの協定は、当財団が地域の皆さまなどのステークホルダーとともに取り組む「イオンの森づくり」に、リモートセンシング技術を活用する事で、持続可能な地域づくりを目指して取り組むものです。

具体的には、リモートセンシング技術による地球規模のグローバルな視点で得た過去及び現在の地表面の情報により、森や地域の状態を効果的に調べ、植樹候補地の選定に必要な情報や、植樹前後の森林の状態を客観的に把握します。これまでイオン環境財団が実施してきた植樹等の森林管理活動を、より効果的に行うことが可能となります。

また教育の場においては、リモートセンシング技術を活用した衛星画像データにより、森林減少、地球温暖化、大気汚染などさまざまな環境問題を把握、理解し、地域の持続的発展のための解決案を考える環境教育も実施いたします。両者は、本協定を機に、次代を担う子どもたちに持続可能な地域と豊かな自然を引き継ぐため、連携して取り組んでまいります。

連携事項

リモートセンシング技術を活用した持続可能な地域づくり

- (1) イオンの森づくり
- (2) 環境教育の実施



ミニ環境教室（イオンモール幕張新都心）

[イオン未来の地球フォーラム]

地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考え、実行策を議論するフォーラム。講演と対話型パネルディスカッションにより理解を深め、成果をまとめる「イオン未来の地球フォーラム」を開催しています。

第4回となる今年度は「海の環境と資源を守る」をテーマに、2020年2月1日（土）に東京大学安田講堂にて開催致します。



第3回イオン未来の地球フォーラム
(東京大学安田講堂)

[日本ユネスコエコパークネットワークとの連携協定]

当財団は、2017年に日本各地のユネスコエコパークが組織する、日本ユネスコエコパークネットワークと、国内初となる連携協定を締結しています。同協定は「生態系の保全」と「持続可能な利活用」の調和を目指し、日本のユネスコエコパークにおける保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援という3つの分野に関して連携して取り組むものです。

[日本ユネスコエコパークネットワークについて]

日本国内におけるユネスコエコパークの地域間連携を促進し、一つの地域では対処できない課題への対応、社会への働きかけなどを行い、ユネスコエコパークの理念に基づいた人間と生物圏とのより良い関係を築いていくことを趣旨とし、ユネスコエコパーク単位が会員として組織しているものです。

ユネスコエコパークについて

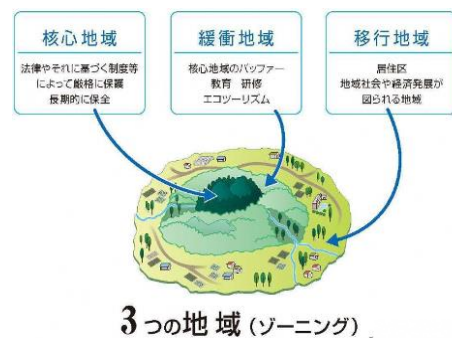
ユネスコエコパーク（生物圏保存地域、BR：Biosphere Reserves^{※1}）は、1976年にユネスコが開始しました。世界自然遺産が手つかずの自然を守る事を原則とする一方、ユネスコエコパークは、「生態系の保全」と「持続可能な利活用」の調和（自然と人間社会の共生）に重点を置いています。認定地域数は、2019年6月現在、124カ国701地域で、うち国内は10地域^{※2}です。

自然と人間社会の共生を目指すユネスコエコパークには、3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）があります。そしてその機能を果たすために3つの地域（核心地域、緩衝地域、移行地域）が設けられています。

核心地域では、厳格に自然が保護され、核心地域保護のための緩衝地域では、教育・研修・エコツーリズム等が行われています。移行地域は人が生活し、自然と調和した持続可能な発展を実現する地域であり、環境を守りながら循環型で持続可能な地域づくりが行われています。

※1日本ではより親しみをもってもらうため、ユネスコエコパークと呼んでいます。

※2「志賀高原」、「白山」、「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」、「屋久島・口永良部島」、「綾」、「只見」、「南アルプス」、「みなかみ」、「祖母・傾・大崩」、「甲武信」（2019年10月時点）



出典：日本ユネスコ国内委員会

日本のユネスコエコパーク



資料提供：日本 MAB 計画委員会